

平成 30 年度 自己評価計画書に対する最終評価報告書

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1	教職員多忙改善 業務分担の適性化等により、 時間外勤務の縮減を図る。	① ・教職員の働き方を見直し、より 効果的な業務分担と協力体制を築 く。	効果的な業務分担と協力体制で 時間外勤務の縮減が図られたと 答える教職員の割合が A：70%以上 である。 B：60%～70%未満である。 C：50%～60%未満である。 D：50%未満である。	C 59%	中間評価と比較し2ポイント上昇した。C評価ではあったが、各教職員の意識的な取り組みで昨年度の時間外勤務（4月～12月）と比較すると平均9時間縮減されている。 次年度も、継続して取り組みたい。
学校関係者評価委員会の評価			時間外勤務の縮減にこだわりすぎると、教育の質が落ちてしまうことが少し心配である。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			各課等から業務分担の具体策等を提案してもらい、検討する。		
2	学力の向上 魅力ある教材および指導法の 工夫により、学ぶ意欲を高め学力 の向上を図る。	① ・授業の工夫、改善のため ICT の 効果的な活用に取り組み、生徒の 学習意欲を高める。	「I C T機器の活用等、工夫を 凝らした授業によって、学習意 欲が高まった。」と答える生徒 の割合が A：70%以上 である。 B：60%～70%未満である。 C：50%～60%未満である。 D：50%未満である。	B 65%	中間評価と比較し1ポイント下降した。1年次生及び3年次生については、70%を上回る評価となっているが、2年次生では前期、後期とも40%台ときわめて低い。 次年度は学習意識を高める工夫をさらに行い、継続して取り組みたい。
		② ・各学年の実情に応じた家庭学習 課題を教科毎に出題する。 ・生徒指導課、進路指導課とさら に連携し、学習時間の確保に努め る。	家庭学習時間が、1日平均1時 間以上と答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：60%～80%未満である。 C：40%～60%未満である。 D：40%未満である。	B 60%	中間評価と比較し4ポイント下降した。3年次生の学習時間が減ったため、進路先が決定したことが影響している。 次年度は週末課題等で自宅学習の習慣を身に付けさせる取り組みを強化し、継続して取り組みたい。
学校関係者評価委員会の評価			高い目的意識を持たせることが、家庭学習の増加に繋がる。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			週末課題等で自宅学習の習慣を身につけさせる指導を徹底することで、家庭学習時間の向上を図っていく。		
3	進路の実現 進学意欲の高揚やキャリア教 育を充実するとともに、個に応じ た指導を充実させ進路実現を図 る。	① ・保護者や関係機関と連携を深 め、個に応じた進路指導の充実を 図る。	学校が提供した個別の進路情報 に対して「満足できた」と答 える保護者が A：50%以上である。 B：40%～50%未満である。 C：30%～40%未満である。 D：30%未満である。	A 71%	中間評価と比較し4ポイント下降した。特に2年次生の満足度が大きく下降した。今年度初めての質問項目であり、個々の生徒がどのような情報を必要としているかを精査しつつ対応してきた。 次年度は個別面談等を通じてより生徒にとって必要な情報を提供していきたい。
		② ・進路説明会や社会人講座、各種 マナー講座、企業見学会により、 就職に対する意欲や必要な態度を 身につける。	「進路説明会や社会人講座、各種 マナー講座、企業見学会等が進路 決定のための参考になった」と答 える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	B 79%	昨年度の最終評価より4ポイント上昇した。各講座等にグループ活動を積極的に取り入れ、コミュニケーション力の育成や自己肯定感の涵養など、内容が生徒の実態に即していたと思われる。 次年度も内容を精査し継続して取り組みたい。
学校関係者評価委員会の評価			生徒の多様性に合わせて、進路指導の内容を精査することが望まれる。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			1年次の早期から、地域と連携した取り組みを行い、生徒一人ひとりに進路目標を持たせ、その実現のためのビジョンを考えさせる。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 基本的生活習慣の確立 心の教育を実践するとともに、 基本的生活習慣の確立や規範意識の高揚を図る。	① ・年三回いじめアンケートを実施するとともに生徒全員に面談をする。 ・目安箱を設置する	学校はいじめに対しての取り組みをしっかりと行っている。 A：90%以上である。 B：70%～90%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	B 70%	中間評価と比較し5ポイント下降した。今後も未然防止・早期発見のための面談を強化し、生徒理解に努める。 次年度も担任・副担任が中心となり継続して取り組みたい。
	② ・携帯電話・スマートフォンを教職員が朝礼時に生徒全員から預かり終礼時に返却する。 ・保護者と連携を図り、家庭での携帯電話のマナー指導をする。 ・生徒会と連携し“スマホ”一日一時間運動や標語ポスターコンテストなどを実施する。	「家庭において、携帯電話・スマートフォン使用のルールが守られている。」と答える保護者の割合が A：60%以上である。 B：50%～60%未満である C：40%～50%未満である。 D：40%未満である。	B 54%	各学年別の評価を比較すると、指導を継続してきた3年次生の割合が最も高くなっている。 次年度も継続して取り組みたい。
	③ ・毎朝、登校指導をする。また、生徒会と連携する。 ・教職員から挨拶し、生徒に模範を示す。 ・全校集会で挨拶の指導をする。	「生徒は積極的に挨拶ができています。」と答える教職員の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	D 45%	自ら挨拶ができる生徒が少ないのが現状である。 次年度は、生徒会とも連携し、定期的に挨拶強化週間などを設定し、生徒の主体的な活動を増やしたい。
	④ ・教室の整理整頓の状況を毎日点検したり、定期的に身のまわりを整理整頓する機会を設置することにより、整理整頓の習慣化を図る。	「自主的に、教室や身のまわりの整理整頓を実践している。」と答える生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	B 74%	意欲的に参加する生徒が少しずつ増え、教室は、概ね整理整頓された状態を維持することができた。しかし、1年次生で、整理整頓を実践していると答えた生徒の割合が中間評価より16ポイント下降するなど、自主的に実践できる生徒はまだ少ない。 次年度も整理整頓の習慣化を目指し工夫しながら継続して取り組みたい。
	⑤ ・教育活動のあらゆる機会をとらえて生徒理解に努め、他者を尊重し、思いやる心を育む。	「私は相手を尊重し、思いやる気持ちを持って接している。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80～90%未満である。 C：70～80%未満である。 D：70%未満である。	B 84%	中間評価より1ポイント下降した。心の醸成には時間を要するが、粘り強く働きかけていくことで、学年を追うごとに育つものと思われる。 次年度も学年団と協力しながら、自己理解・他者理解を含めて、人間関係づくりを進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		いじめ報道された事例を集めて対応策等を検討しておくが良い。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		いじめ対策委員会で、いじめ報道された事例の対応策も検討する。		

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）	
5	体力向上と健全な人間性の育成 特別活動や部活動を充実し忍耐力や協調性を養い、心身ともに健全な生徒を育成する。	①	・生徒の持久力向上を図るため、 体育授業時に男子は1100m、女子は800mのタイムを毎回計測する。	20mシャトルランの記録が向上した生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	A 82%	年間を通してタイム計測を継続して取り組んだことが高い評価に結びついた。持久力向上は生涯スポーツにつながることで、次年度も継続して取り組みたい。
		②	・部主将会議を各学期に開催し、部活動の状況を把握し、部活動参加率調査を実施する。	部活動実施日に対する参加率が A：90%以上である。 B：80%～90%未満である。 C：70%～80%未満である。 D：70%未満である。	B 85%	1学期は95%、2学期84%、3学期は68%、通年で85%であった。3学期がとりわけ低いのは、検定の補習等があったためである。部活動とは違う面で生徒の健全な育成に資するものであり、本校においては部活動より優先してしかるべきと思われる。とはいえ、部活動の活性化は本校の課題であり、次年度も継続して取り組みたい。
学校関係者評価委員会の評価			部活動加入状況だけではなく、運動習慣をどう身につけさせてやるかを考えてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			部活動の活性化のためにも、部活動の意義を伝え、魅力的な活動を行う必要がある。			
6	地域との連携 地域との連携や情報発信に努め、地域から愛され信頼される学校づくりを推進する。	①	・関係機関等と連携した教育活動も充実させ、生徒の学校生活の満足度を高め、保護者の信頼を得る。	「本校に入学させてよかったと思う。」との問いに対して、「よくあてはまる」と答える保護者の割合が A：55%以上である。 B：45%～55%未満である。 C：35%～45%未満である。 D：35%未満である。	B 51%	中間評価と比較して2ポイント下降した。これは3年次生の進路に関わることでありと考えている。 2年次生は、学校での生徒に対する指導が家庭に伝わってきたため、1ポイント上昇している。 次年度は、年度当初に本校の取り組み内容やねらいなど明確に周知し、資料等提示したい。
		②	・ケーブルテレビやホームページ、「広報しか」などの定期的な情報発信により、本校の教育活動を理解してもらおう。	ケーブルテレビやホームページ、「広報しか」などを利用した情報発信を定期的に行うことにより、本校の教育活動が理解できたと感じる保護者の割合が A：80%以上である。 B：70%～80%未満である。 C：60%～70%未満である。 D：60%未満である。	C 67%	中間評価と比較して2ポイント下降した。これは、ケーブルテレビによる情報発信が定期的に行うことが出来なかったためと考える。 次年度は、ケーブルテレビによる情報発信を情報推進課と早い段階で連携を行いたい。
学校関係者評価委員会の評価			志賀高校の魅力を広範囲に発信してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			本校の魅力や様々な取り組みについて、ケーブルTVや広報誌、町のサイトなどを適宜活用して発信する。			